

令和4年度

学校だより

## まごころ

城東小

校長

佐藤俊幸



## 学校評価について

学級懇談会へのご参加、ありがとうございました。各学級においても子どもの成長、次学年への展望等、1年間の振り返りがなされたことと思います。

学校全体としても、12月に実施した学校評価をもとに本校の教育活動をふり返ってみます。

保護者の皆様には、全部で15項目の評価をお願いしました。「徳・知・体の調和的な教育の推進」「一人一人を大切に育てる教育の推進」「安全で良好な教育環境の整備」などに関わる内容です。

4段階評価でしたが、13項目で「4」「3」を合わせて90%を超えました。中でも下に示した項目は95%を超えています。

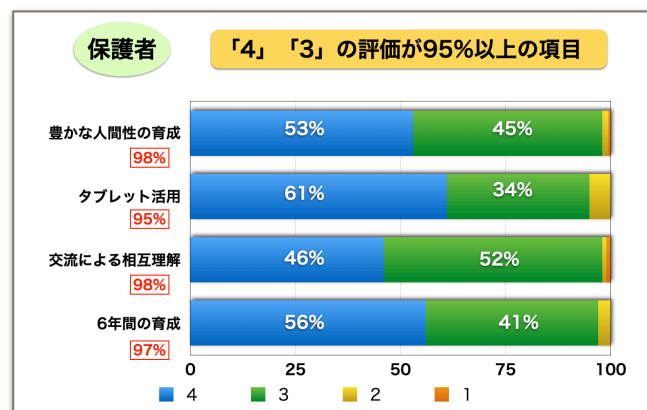
また、4年生以上の子どもたちにも評価を行いました。「先生は、みなさん一人一人の気持ちを考えて接してくれますか」「授業は分かりやすいですか」など8項目です。このうち、6項目で「4」「3」合わせて90%を超えました。

これら二つの結果を見ても、本校の教育活動が一定のご理解をいただいているものと考えます。もちろん、いいことばかりではありません。次年度に向けての課題もあります。

〈学校評価で90%を超えなかったもの〉

- 保護者 学校と家庭の連携（82%） めざす子ども像の理解（84%）
- 子ども 安全・事故防止（88%） めざす子ども像の理解（85%）

本校は、「まごころ五か条」を日々の教育活動の基盤としながら「協働し、変わり続ける子ども」の育成を目指しています。簡単に言えば「協働」とは、互いを認め合い、支え合っていくこと、「変わり続ける」とは、成長し続けることです。



この目指す子ども像については、学級でも、集会でも繰り返し確認する場を設けてきましたので、ほぼ100%の子どもたちが理解していると考えていました。しかし、結果から見ると、まだ不十分だと反省しています。

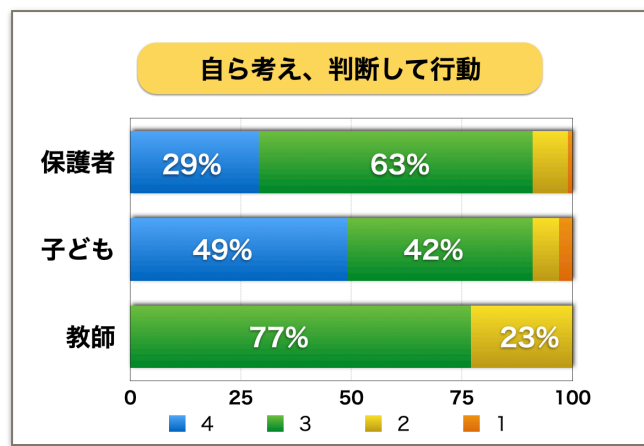
単に「協働し、変わり続ける」という抽象的なスローガンではなく、どんなことについて成長したいのか、できたのかなど日々の目標などと重ね合わせながら具体化していくことが必要ですね。こういった視点からも学校と家庭の連携をより密接にしていきたいと考えます。

また、保護者、子ども、教師の間で、大きく評価の差が見られた項目もありました。それが下の「自ら考え、判断して行動する」です。

この結果を見ると、子どもたち（4年以上）の約50%は、日々の学習や生活において、「自ら考え、判断し、行動できている」と考えています。

それに対して、保護者の方々は約30%、教師は0%です。

なぜ、このような差が生じたのでしょうか。それは、それぞれがイメージしている具体像にズレがあるからだと考えます。



私たち教師も、「自分で考え、行動しなさい」とよく話します。しかし、どんな場面で、どのように行動することが重要なのか、その具体像を十分に伝えてこなかったのではないかと反省しています。

例えば、時間割を学校に忘れた時、自習で指示された内容が全部終わった時、掃除で自分の役割が終わった時、何かがうまくいかない時、失敗した時など、様々な場面において、どのような姿が「自分で考え、判断し、行動している」と言えるのか、具体的に共有していくことが大切です。

私たち大人が、指示する、手を出すのではなく、自ら考えて判断することの大切さを話しながら、その機会を多く与えていく。その点についても家庭との連携をより一層充実させていきたいと思えます。